

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	技術・家庭(技術分野)	学年	1	年	時間数	70/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	出版社名	開隆堂
------	--------------------------	------	-----

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	(ガイダンス)	技術分野で学ぶこと 作業の安全 ものづくりの流れ			◎	授 業 の 概 要 ガイダンスで今後3年間の技術の授業で学習する内容について解説します。 材料と加工の技術では、まず身の回りにある様々な製品の材質について理解を深めます。図のかき方を習得し、製作品を図で表します。その後木材を用いた製品作りを行います。その過程で工程や工具の使い方などを習得し、作品の完成を目指します。
		生活や社会における技術の役割	①技術の役割 ②技術の見方・考え方 ③技術と生活・産業 ④技術とエネルギー・環境			◎	
		(A 材料と加工の技術)	⑤受け継がれ発展する技術			◎	
		1-1 生活や社会と材料と加工の技術	①生活や社会を支える材料と加工の技術 ②身の回りにある材料と加工の技術		◎	○	
	5	中間考査(5/16～5/17)		◎	◎	○	学 習 の 到 達 目 標
		1-2 材料を利用するための技術	①さまざまな材料と加工の技術 ②木材の材料と加工の技術 ③金属の材料と加工の技術 ④プラスチックの材料と加工の技術 ⑤構造を丈夫にする ⑥製図	◎		○	
		期末考査3年(6/28～7/4) 期末考査1・2年(6/29～7/4)		◎	◎	○	
		2-1 問題解決の手順	①問題解決の流れ ②問題の発見と課題の設定 ③設計	◎	◎	○	
	6	夏季休業日(7/21～8/24)					・材料と加工の技術の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることができる。 ・材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めることができる。 ・生活の中から材料と加工の技術に関わる問題を見い出して課題を設定して解決する力、よりよい生活の構築に向けて、適切かつ誠実に材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。
		2-2 製作のための技能(木材)	① 材料取りと部品加工	◎	◎	○	
		中間考査(10/5～10/6)		◎	◎	○	
				◎		○	
二 学 期	8			◎	◎	○	評 価 の 観 点 知識・技能 生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み、及び材料と加工の技術と便利な生活との関わりについて、理解しているとともに、製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能を身に付けている。
				◎		○	
				◎		○	
				◎		○	
	9			◎		○	思考・判断・表現 生活の中から材料と加工の技術と収納等に関わる問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよい生活や社会の実現を目指して材料と加工の技術を評価し、適切に選択・管理・運用する力を身に付けている。
				◎		○	
				◎		○	
				◎		○	
	10			◎	◎	○	主体的に学習に取り組む態度 便利な生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。
				◎		○	
				◎	◎	○	
				◎	◎	○	
	11			◎		○	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「製作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
				◎		○	
				◎		○	
				◎		○	
三 学 期	12			◎		○	備 考
				◎		○	
				◎		○	
				◎		○	
	1			◎	◎	○	
				◎	◎	○	
				◎	◎	○	
				◎	◎	○	
	2			◎	◎	○	
				◎	◎	○	
				◎	◎	○	
				◎	◎	○	
	3			◎	◎	○	
				◎	◎	○	
				◎	◎	○	
				◎	◎	○	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	技術・家庭(技術分野)	学年	2	年	時間数	70/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	出版社名	開隆堂
------	--------------------------	------	-----

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	(B 生物育成の技術)	①生活や社会を支える生物育成の技術		◎	○	授 業 の 概 要 「B 生物育成の技術」では、作物や動物、水産生物などの基本的な生物育成の技術について学んだ後、簡単な作物の栽培に取り組みます。 「C エネルギー変換の技術」では、まず電気エネルギーの利用方法や保守点検について理解するとともに、機械部品による運動エネルギーの伝達についても学習します。その後、簡単な電気回路について学習し、機械部品や電子部品の組み立てを含む製品の製作を行います。
		1－1 生活や社会と生物育成の技術	②身の回りにある生物育成の技術		◎	○	
		1－2 さまざまな生物育成の技術	①作物の栽培技術 ②動物の飼育技術 ③水産生物の栽培技術 ④森林の育成技術	◎		○	
	5			◎		○	
		中間考査(5/16～5/17)		◎	◎	○	
		2 生物育成の技術による問題解決	①問題解決の流れ ②生物育成計画の立て方(実習)		◎	○	
	6			○	◎	○	
				○	◎	○	
				○	◎	○	
	7	期末考査3年(6/28～7/4) 期末考査1・2年(6/29～7/4)		◎	◎	○	
3 これからの生物育成の技術		①生物育成の技術の学習をふり返ろう ②生物育成の技術と私たちの未来	◎		○		
夏季		夏季休業日(7/21～8/24)					
二 学 期	8	(C エネルギー変換の技術)	①生活や社会を支えるエネルギー変換の技術		◎	○	学 習 の 到 達 目 標 ・生活や社会で利用されている生物育成の技術について基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることができる。 ・生物育成の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めることができる。 ・生物育成の技術と環境に関わる問題を見い出して課題を設定し、適切かつ誠実に生物育成の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。 ・生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術について基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることができる。 ・エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めることができる。 ・生活や社会の中からエネルギー変換の技術と安心・安全に関わる問題を見い出して課題を設定し解決する力、安全な生活や社会の構築に向けて適切かつ誠実にエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。
		1－1 生活や社会とエネルギー変換の技術	②身の回りにあるエネルギー変換の技術		◎	○	
		1－2 エネルギー資源の利用	①エネルギーの利用 ②燃料を利用した技術 ③発電と送電のしくみ ④エネルギー変換効率と省エネルギー	◎		○	
	9	1－3 電気の利用	①電気エネルギーの特徴	◎		○	
		中間考査(10/5～10/6)		◎	◎	○	
			②光や熱に変換するしくみ ③動力や音・信号に変換するしくみ ④電気回路と回路図 ⑤電気機器の安全な利用 ⑥電気機器の保守点検	◎		○	
	10			◎		○	
				◎		○	
				◎		○	
	11	1－4 運動の利用	①力の伝達 ②動きを変化させるしくみ ③力や運動を保存するしくみ ④部品の固定と共通部品 ⑤機械の保守点検	◎		○	
			◎	◎	○		
			◎		○		
12	期末考査3年(11/29～12/5) 期末考査1・2年(11/30～12/5)		◎	◎	○		
	2 エネルギー変換の技術による問題解決	①問題解決の流れ(実習)	◎	◎	○		
			◎	◎	○		
冬季		冬季休業日(12/21～1/8)					
三 学 期	1			◎	◎	○	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「製作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
				◎	◎	○	
				◎	◎	○	
	2			◎	◎	○	
				◎	◎	○	
				◎	◎	○	
	3	学年末考査3年(2/22～2/29) 学年末考査1・2年(2/26～2/29)		◎	◎	○	
				◎	◎	○	
		3 これからのエネルギー変換の技術	①エネルギー変換の技術の学習をふり返ろう ②エネルギー変換の技術と私たちの未来	◎		○	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	技術・家庭(技術分野)	学年	3	年	時間数	35/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	出版社名	開隆堂
------	--------------------------	------	-----

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	(D 情報の技術)	①生活や社会を支える情報の技術		◎	○	授 業 の 概 要 「D 情報の技術」では、生活や社会を支える情報の技術について学習します。具体的には、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツ(例えばチャットのような機能)のプログラミングや、センサーで計測した情報をもとにアクチュエータを制御するプログラミングを行います。また、情報モラルの必要性や情報セキュリティについての基礎知識も学習します。 学 習 の 到 達 目 標 ・情報の技術の見方・考え方を働かせ、利便性や安全性を高める双方向性のあるコンテンツや身近な不便さを解消する計測・制御システムのプログラムを設計・制作する実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることができる。 ・情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに、生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力を身に付けることができる。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。 評 価 の 観 点 知 識 ・ 技 能 生活や社会で利用されている情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、情報モラルの必要性及び、情報の技術と安全な生活や社会、環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 情報通信ネットワークを利用したアプリや計測・制御の技術によって解決できる問題を見いだして、必要な機能を持つコンテンツや計測・制御システムに関する課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築を目指して情報の技術の評価し、適切に選択、管理・運用、改良、応用する力を身に付けている。 主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 よりよい生活の実現や持続可能な社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとしている。
		1-1 生活や社会と情報の技術	②身の回りにある情報の技術		◎	○	
		1-2 情報とコンピュータ	①コンピュータの構成 ②コンピュータの機能と装置 ③コンピュータを使って機器を自動で動かすしくみ	◎		○	
	5	中間考査(5/16～5/17)		◎	◎	○	
			④コンピュータによる処理のしくみ ⑤プログラムの構造と表現 ⑥情報のデジタル化 ⑦デジタル情報の特徴	◎		○	
				◎		○	
	6	1-3 情報の表現と伝達	①使いやすさを工夫した情報の表現 ②メディアを利用した情報の表現	◎		○	
				◎		○	
				◎		○	
	7	期末考査3年(6/28～7/4) 期末考査1・2年(6/29～7/4)		◎	◎	○	
			③情報通信ネットワークのしくみ ④Webのしくみと情報の表現	◎		○	
				◎		○	
夏 季		夏季休業日(7/21～8/24)					
二 学 期	8	1-4 情報セキュリティと情報モラル	①情報セキュリティ	◎		○	評 価 の 観 点 知 識 ・ 技 能 生活や社会で利用されている情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、情報モラルの必要性及び、情報の技術と安全な生活や社会、環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 情報通信ネットワークを利用したアプリや計測・制御の技術によって解決できる問題を見いだして、必要な機能を持つコンテンツや計測・制御システムに関する課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築を目指して情報の技術の評価し、適切に選択、管理・運用、改良、応用する力を身に付けている。 主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 よりよい生活の実現や持続可能な社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとしている。
			②情報モラル	◎	○	○	
			③知的財産の保護と活用	◎		○	
	9	中間考査(10/5～10/6)		◎	◎	○	
				◎		○	
				◎		○	
	10	2-1 双方向性のあるコンテンツによる問題解決	①問題解決の流れ(実習)	○	◎	○	
				○	◎	○	
				○	◎	○	
	11			○	◎	○	
				○	◎	○	
				○	◎	○	
三 学 期	12	期末考査3年(11/29～12/5) 期末考査1・2年(11/30～12/5)		◎	◎	○	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「製作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 備 考
			①問題解決の流れ(実習)	○	◎	○	
				○	◎	○	
	1	2-2 計測・制御による問題解決		○	◎	○	
				○	◎	○	
				○	◎	○	
	2	冬季休業日(12/21～1/8)					
	3	学年末考査3年(2/22～2/29) 学年末考査1・2年(2/26～2/29)		◎	◎	○	
				◎	◎	○	
				◎	◎	○	
三 学 期	3	3 これからの情報の技術	①情報の技術の学習をふり返ろう ②情報の技術と私たちの未来	◎		○	
					◎	○	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	1	年	時間数	70/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	出版社名	開隆堂
------	------------------------	------	-----

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	家庭分野ガイダンス	家族・家庭と地域の生活 生活の土台 自立と共生	○			授 業 の 概 要 ガイダンスでは、今後3年間の家庭分野の授業で学習する内容について説明します。 衣生活では、衣服の役割や着用の仕方を学び、日常着の手入れや補修の実習を行います。 住まいのはたらきを知り、安全で快適な住まいについて学習します。
		A 家族・家庭生活		○			
		1 自分の成長と家族・家庭生活	1 今の自分とこれまで 2 わたしの生活と家族・家庭	◎		○	
			3 家庭を支える社会 4 中学生にとっての家族	◎		○	
		B 衣食住の生活		◎		○	
		中間考査(5/16～5/17)		○			
	5	1 目的に応じた衣服の選択	1 衣服で伝わるメッセージ 2 自分らしくコーディネート	○	◎		学 習 の 到 達 目 標
		3 生活を豊かにするものの製作	製作の基礎・基本	◎		○	
		防災リュックの製作	・ミシン縫いの練習	◎		○	
			・しるしをつける	◎		○	
			・ポケットをつける	◎		○	
		期末考査3年(6/28～7/4) 期末考査1・2年(6/29～7/4)		◎	○		
二 学 期	7		・本体脇縫い	◎		○	・衣服と社会生活とのかかわりに関心を持ち、TPOに応じた衣服を着用することができる。 ・衣服材料に応じた日常着の手入れや補修、既製服の表示について理解することができる。 ・衣服に付く汚れの性質を理解して、正しい手入れや保管の仕方を理解することができる。 ・住居の基本的な機能を学び、家族の安全を考えた室内環境の整え方を考え、快適な住まい方を工夫することができる。
			・底マチ縫い	◎		○	
		夏季休業日(7/21～8/24)					
		8	・内袋脇縫い	◎		○	
			・内袋底マチ縫い	◎		○	
			・本体内袋縫い合わせ	◎		○	
	9		・まつり縫い	◎		○	評 価 の 観 点
			・ひも通し・仕上げ	◎		○	
		中間考査(10/5～10/6)		○			
		2 日常着の手入れと保管	1 まかせて衣服の手入れ 2 布の繊維に応じた手入れ		◎		
			3 めざそう洗濯名人	○	◎		
			4 補修や収納・保管	◎		◎	
三 学 期	12	期末考査3年(11/29～12/5) 期末考査1・2年(11/30～12/5)		◎	○		主体的に学習に取り組む態度 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
		4 持続可能な衣生活	持続可能な衣生活を目指して	○	◎	○	
		冬季休業日(12/21～1/8)					
		B 衣食住の生活		○			
		1 住まいのはたらきとこころよさ	1 住まいのはたらき 2 住まいの空間	○	◎		
		2 安全な住まいで安心な暮らし	1 家庭内事故への備え 2 災害への備え	○	◎	○	
冬 季	2	学年末考査3年(2/22～2/29) 学年末考査1・2年(2/26～2/29)		◎	○		評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。各学期の成績は、上記の観点から評価し、5段階法でも評定します。学年末の成績は、各学期の総合評価とします。
		3 持続可能な住生活	持続可能な住生活を目指して	◎	○		
					◎	○	
					◎	○	
					◎	○	
					◎	○	
三 学 期	3				◎	○	備 考
					◎	○	
					◎	○	
					◎	○	
					◎	○	
					◎	○	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	2	年	時間数	70/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	出版社名	開隆堂
------	------------------------	------	-----

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	B 衣食住の生活	ガイダンス			○	授 業 の 概 要 食生活と健康の関わりを学び、食品の特徴を生かした、安全で合理的な調理実習を行えるようにします。自分の消費生活を振り返り、購入の意思決定の方法や、契約の概念、販売方法・支払い方法の特徴と契約解除の方法を学習し、環境に配慮した消費生活行動について具体的に学びます。 学 習 の 到 達 目 標 ・食品の性質を理解し、自分の食生活に生かすとともに、合理的な調理の計画を立てることができる。 ・家庭生活と消費について、また、環境に配慮した消費生活について関心を持って学習に取り組み、よりよい消費生活行動を実践することができる。
		1 食事の役割と食習慣	1 食事の役割 2 健康によい食習慣	◎	○		
		2 中学生に必要な栄養を満たす食事	身体に入った栄養素のゆくえ 1 中学生の発達と必要な栄養素		◎		
	5	中間考査(5/16～5/17)		○		○	
			2 栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 1 日にとりたい食品と分量	◎		○	
	6	3 さまざまな食品とその選択	3 栄養バランスを目で見て判断 食品が食卓にのぼるまで		◎		
			1 生鮮食品の選択と保存	◎			
二 学 期	7	期末考査3年(6/28～7/4) 期末考査1・2年(6/29～7/4)		◎	○	○	・食品の性質を理解し、自分の食生活に生かすとともに、合理的な調理の計画を立てることができる。 ・家庭生活と消費について、また、環境に配慮した消費生活について関心を持って学習に取り組み、よりよい消費生活行動を実践することができる。
			2 加工食品の選択 3 食品の安全と情報	◎		◎	
	8	夏季休業日(7/21～8/24)					
	9	4 日常食の調理	1 調理の計画 2 おいしさ調理 3 まずまず好きになる肉の調理 5 好きになる野菜の料理 調理実習「肉を使った料理・野菜の汁物」 同 上			◎	
		中間考査(10/5～10/6)		○		○	
			4 こんなにおいしい魚の調理 調理実習「魚を使った料理・野菜料理」 同 上 調理実習「一品料理・おやつやデザート」	◎	○		
	10	5 地域の食文化	地域の食文化 日本各地の郷土料理	○	○		
		6 献立づくり	1 日分の献立	○	◎		
		7 持続可能な食生活	持続可能な食生活をめざして	○	◎		
	12	期末考査3年(11/29～12/5) 期末考査1・2年(11/30～12/5)		◎	○	○	
		C 消費生活・環境	1 消費生活のしくみ 2 家庭生活における収入と支出	◎			
	1	1 家庭生活と消費		◎			
		冬季休業日(12/21～1/8)					
三 学 期	1	2 購入・支払いと生活情報	1 いろいろな購入方法 2 購入前に知っておくこと 売買契約 3 いろいろな支払い方法 4 情報を活用した上手な購入 暮らしの中のマーク		◎	○	主体的に学習に取り組む態度 よりよい生活の実現や持続可能な社会に向けて、具体的に工夫し行動して、課題の解決に主体的に取り組んだり、生活行動を工夫して実践しようとしている。 評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、「授業への取り組み方とノート整理」、「体験的な学習への取り組みと自己評価」、「定期考査」、「提出物」、「出席状況」により評価します。各学期の成績は、上記の観点から評価し、5段階法でも評定します。学年末の成績は、各学期の総合評価とします。 備 考
		3 消費者被害と消費者の自立	1 なくならない消費者被害	◎			
		学年末考査3年(2/22～2/29) 学年末考査1・2年(2/26～2/29)		◎	○	○	
	2		中学生の消費者被害 2 消費者を支えるもの 3 消費者の権利と責任	◎		◎	
				◎			
				◎			
	3			◎			

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科書名	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	出版社名	開隆堂
------	------------------------	------	-----

[illegible]

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年	4 年	類型	共通	単位数	2 単位
----	----	----	------	----	-----	----	----	-----	------

教科書名	家庭基礎 自立・共生・創造	出版社名	東京書籍
------	---------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	第1章 生涯を見通す	オリエンテーション			○	授 業 の 概 要 家庭基礎では、生活面での知識や技術を身に付けて「自立し、異なる世代の人々と「共生」する意識を持ち、自分らしい「生活」を創造していく力を養います。 また「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を通して、家庭や地域の生活課題を主体的に解決できる力を養います。 学 習 の 到 達 目 標 ・人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に身に付ける。 ・学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決することができる。 ・家族や社会との共生を目指し、生活の充実に向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。 ・ホームプロジェクトの実践により、知識や技術を自分の生活に活かし、さらに意思決定能力や問題解決能力を身に付ける。 ・学校家庭クラブ活動の実践を通して、家庭と社会との関わりについて理解し、共に生きる社会の一員としての自覚を持つことができる。
		1 人生を展望する	1 人は生涯を通して発達する 2 青年期の課題		◎		
		2 目標を持って生きる	1 人生は意思決定の連続 2 未来予想図を描く		○	◎	
		第2章 人生をつくる	1 「人生100年」時代を生きる			○	
	5	1 人生をつくる	2 自分のライフスタイルを選ぶ		◎		
		中間考査4年(5/16～5/19)			○		
		2 家族・家庭を見つめる	1 家族・家庭をどう捉えるか 2 家族と法律			◎	
		第3章 子どもと共に育つ	1 次世代の育成 2 青年期の責任	○			
	6	1 命を育む	3 命の誕生 4 母体の健康管理	◎			
		2 子どもの育つ力を知る	1 身体の発達 2 心の発達			○	
二 学 期	7	第4章 超高齢社会を共に生きる	1 高齢者の自立を支える	○			
		期末考査(6/28～7/4)		◎			
		3 これからの超高齢社会	2 高齢者と共に地域をつくる	◎	○		
		ホームプロジェクトの計画	ホームプロジェクト計画			○	
	8	夏季休業日(7/21～8/24)					
		第6章 食生活をつくる	ホームプロジェクト発表	◎		○	
		1 食生活の課題について考える	1 青年期の食生活の課題 2 「食べる」とは			○	
		2 食生活の課題について考える	3 食生活の課題 4 食生活の変化		◎	○	
	9	2 食事と栄養・食品	1 栄養と栄養素 2 炭水化物 3 脂質 4 たんぱく質	○			
		3 食品の選択と安全	5 無機質 6 ビタミン	○			
三 学 期	10	5 調理の基礎	1 食品の選択 2 食品の保存と加工			◎	
		中間考査(10/3～10/6)				○	
		5 調理の基礎	調理実習計画と準備(和食)			○	
		5 調理の基礎	調理実習1	◎			
	11	5 調理の基礎	調理実習計画と準備(洋食)			○	
		5 調理の基礎	調理実習2	◎			
		5 調理の基礎	調理実習計画と準備(中国料理)			○	
		5 調理の基礎	調理実習3	◎			
	12	第7章 衣生活をつくる	1 高校生と衣生活 2 着るとは			○	
		期末考査(11/29～12/5)		◎			
四 学 期	1	1 被服の役割を考える	3 被服の保健衛生的機能 4 被服の社会的機能	◎	○		主体的に学習に取り組む態度 家庭や地域の生活について関心をもち、その充実に向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに、「授業(実習)態度・取り組み方」、「定期考査」、「提出物(レポートやノート、作品)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 備 考
		3 被服を管理する	1 被服の手入れ 2 被服と表示 3 被服材料の性能	○			
		冬季休業日(12/21～1/8)		◎			
		第8章 住生活をつくる	1 住居の機能と変化 2 平面図を理解する	○			
	2	1 住生活の変遷と住居の機能	3 住居の計画 4 誰もが住みやすい住居とまち		○	◎	
		2 安全で快適な住生活を目指して	1 住居の防災 2 健康な住生活	◎			
		第9章 経済生活を営む	1 情報収集・比較と意思決定	○			
		2 購入・支払いのルールと方法	1 購入と契約	◎			
	3	4 生涯の経済生活を見直す	2 家計をマネジメントする 3 家計資産をマネジメントする	○			
		学年末考査(2/22～2/29)		◎			
		第11章 これからの生活を想像する	1 生活設計をする	◎	○		
		1 生活をデザインする	2 これからの社会を創造する			◎	
			人生すごろく	○			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	学年	6 年	類型	グローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	-----------	----	-----	----	----------	-----	---	----

教科書名	子どもの発達と保育 新訂版	出版社名	実教出版
------	---------------	------	------

学期	月	指 導 計 画			評価の観点					授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容		関	思	技	知		
一 学 期	4	1章 子どもの発達の特徴	1節 発達と乳幼児期の意義	1 子どもの発達	◎			○	授 業 の 概 要 子どもの発達と保育では、「子どもの発達の特性」、「子どもの発達の過程」、「子どもの生活」、「子どもの保育」、「子どもの福祉」について学習します。教科書や資料プリントを用いて、乳幼児期が人間発達の基礎を培う時期であることを踏まえ、誕生から就学までの長期的視野をもち、実際に子どもと触れ合う学習活動を通して、子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と実践的な態度を身に付けます。また、保育技術検定を受検し、子どもと触れ合う技術を高めます。	
			2節 発達と保育環境	1 発達と保育環境のかかわり		◎				
	5	2章 子どもの発達の過程	2 保育環境を整える					○		
			3節 児童観と発達観	1 児童観・発達観とは						◎
			中間考査(5/16～5/19)				○			
	6	1節 子どもの発育	1 胎児の発育・発達	○				◎		
			幼児とのふれあい		◎					
			2 乳幼児の身体的特徴	○				◎		
	7	3 乳幼児の生理的特徴		○				◎		
			期末考査(6/28～7/4)				○	◎		
2節 子どもの精神発達					◎	○				
夏季	3節 人間関係の発達		◎		○					
		夏季休業日(7/21～8/24)								
二 学 期	8	4章 子どもの保育	1節 保育の意義と重要性		◎			子どもの発達を促すための保育の必要性和意義を理解し、保育の目標に応じた基本的な保育技術を身に付けることができる。 ・児童福祉の理念や関係法規と制度について学び、近年の子育て支援の考え方と施策について理解することができる。		
			2節 家庭保育と集団保育	3節 保育の方法		○			◎	
	9	3章 子どもの生活	1節 生活と養護	1 生活と健康					○	
				2 栄養と食事			◎		○	
				3 食習慣の形成					◎	
	10	中間考査(10/3～10/6)							◎	
			2節 子どもの遊び	1 生活と遊び		○				
				2 遊びの援助			○			
	11	3節 生活習慣の形成	1 生活習慣の意義		◎					
			2 基本的生活習慣		○				◎	
3 社会的生活習慣				○			◎			
12	4節 健康管理と事故防止	1 日常の健康管理 2 病気の看病と予防	◎			○				
							◎			
		期末考査(11/29～12/5)				○	◎			
冬季	12	折り紙、おもちゃづくり		◎	○			知 識 ・ 理 解 子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。		
			幼児との交流				○			
			冬季休業日(12/21～1/8)							
三 学 期	1	5章 子どもの福祉	1節 子どもの福祉		◎		○	評 価 方 法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。		
			2節 子育て支援		◎		○			
			学習のまとめ	○			○			
	2	家庭学習		○			○			
				○			○			
				○			○			
3				○		○	備 考			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	家庭	科目	ファッション造形基礎	学年	6 年	類型	グローバル文科系	単位数	2 単位
----	----	----	------------	----	-----	----	----------	-----	------

教科書名	ファッション造形基礎	出版社名	実教出版
------	------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点					授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	1章 衣服の構成	1 人のからだと衣服 2 衣服製作のための人体計測 1 立体構成衣服 2 平面構成衣服 1 洋服とは 2 製作のための道具 実習①基礎縫いを利用した巾着袋の製作	○					授 業 の 概 要 ファッション造形基礎では、被服の構成を理解し、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術の習得を目指します。 また、ファッション造形の基礎的な能力と態度を身に付けます。 学 習 の 到 達 目 標 ・被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得することができる。 ・ファッション造形の基礎的な能力と態度を身に付ける。
		1節 人体と衣服		◎					
		2節 立体構成衣服と平面構成衣服			◎		○		
		3章 洋服の製作		○		◎			
		1節 製作の基礎				◎	○		
	5	中間考査(5/16～5/19)					○		
				○		◎			
				○		◎			
				○		◎			
					◎	○			
二 学 期	6		実習②巾着袋の装飾		◎	○			
					◎	○			
					◎	○			
					◎	○			
					◎	○			
	7	期末考査(6/28～7/4)	1 洋服の着装 2 着装の工夫－コーディネート－			○	◎		評 価 の 観 点 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 衣服の構成・材料・製作について関心をもち、衣生活の充実・向上をめざして意欲的に取り組むとともに、衣服を創造的に製作する態度を身に付けている。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 衣服のデザインや材料の選択に関し、個人の創意・工夫を表現することができる。また、製作過程や作品の着用において、必要に応じて個人の創意・工夫を生かし表現することができる。 技 能 製作題材を踏まえた技法を用い、計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができる技能を身に付けている。
		3節 着装		◎			○		
				○	◎				
						○	◎		
						◎	○		
三 学 期	8	夏季休業日(7/21～8/24)	3 採寸 4 パターン(型紙)の種類と利用 実習③洋服の製作(ブラウス・シャツの製作)						
	9	1節 製作の基礎					○		評 価 方 法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート)」、「作品」により評価します。また学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		2節 製作例		○		◎			
					○	◎			
				○		◎			
				○		◎			
冬 季	10	中間考査(10/3～10/6)	1 和服とは 2 和服の素材 3 製作のための用具と基本的な技法 2 簡単な和服の製作			◎	○		
		4章 和服の製作		○		◎			
		1節 製作の基礎		◎			○		
		2節 製作例				◎	○		
				○		◎			
三 学 期	11	期末考査(11/29～12/5)	1 和服の着用 2 和服の種類と用途						備 考
		3節 着装		○					
				○			○		
三 学 期	12	冬季休業日(12/21～1/8)	1 繊維 2 糸 3 布 4 衣服素材の改質・加工 5 これからの衣服素材 1 衣服材料の性能 2 衣服材料の選択 家庭学習	○			○		
		2章 衣服の素材					○		
		1節 衣服素材の種類					○		
		2節 衣服素材の性能と選択		○			○		
				○			○		
三 学 期	1			○			○		
三 学 期	2								
三 学 期	3								

